

しろくまテスト 第四回 問題編

ことわざや慣用語もやってみましょう。
ことわざ、慣用語も、整理してまとめると頭に入りやすいよ。そのポイントは「体の一部」「漢数字」「反対の意味」の三つ。

1 体の一部をあらわす漢字を一字入れて慣用語を完成しなさい。

- 一 目から（ ）にぬける。
- 二 ロに蜜（みつ）あり、（ ）に剣あり。
- 三 真綿（まわた）で（ ）をしめる。
- 四 （ ）をそろえてお金をはらう。
- 五 勉強がよくできることを（ ）にかけてじまんする。

2 体の一部をあらわす漢字一字を入れ、その意味を選びなさい。

- | | | | |
|---|---------|----|-----|
| 一 | （ ）を折る | 記号 | （ ） |
| 二 | （ ）を入れる | 記号 | （ ） |
| 三 | （ ）に乗る | 記号 | （ ） |
| 四 | （ ）を割る | 記号 | （ ） |
| 五 | （ ）をつぶす | 記号 | （ ） |
| 六 | （ ）を貸す | 記号 | （ ） |
- ア 白状（はくじょう）すること
イ 非常におどろくこと
ウ 恥（はじ）をかかせること
エ 本気になってことにあたること
オ 相談にのること
カ 計略（けいりやく）にひっかかること

3 漢数字を答え、意味をえらびなさい。ただし、あてはまる意味がない場合は×をつけなさい。

- 一 石の上にも（ ）年 記号（ ）（ ）
 - 二 一寸の虫にも（ ）分の魂（たましい）記号（ ）（ ）
 - 三 岡目（ ）目 ※「傍目（おかめ）」の場合もあり 記号（ ）（ ）
 - 四 （ ）足のわらじをはく 記号（ ）（ ）
 - 五 （ ）つ子の魂百まで 記号（ ）（ ）
 - 六 十日の菊（きく）、（ ）日のあやめ 記号（ ）（ ）
- ア だれにもくせがあること
- イ 他人を傷つけようとすると、自分にもその害がおよぶこと
- ウ 部外者のほうが、当事者よりもよく情勢がわかること
- エ 忍耐（にんたい）強くあることのたとえ
- オ 幼いときの性質は、一生消えないこと
- カ 時期おくれでやくにたたないこと
- キ 二つの職業を兼ねること
- ク どんなにつまらない者でもそれなりに意地があること

4 一〜五、ア〜オに適切な語句を入れ、一〜五の反対の意味のものをア〜オから選びなさい。

- | | | | | |
|---|--------------------|----|-----|-----|
| 一 | あとは（ ）となれ（ ）となれ | 記号 | （ ） | （ ） |
| 二 | 三人よれば（ ）の知恵 | 記号 | （ ） | （ ） |
| 三 | （ ）は寝てまで | 記号 | （ ） | （ ） |
| 四 | （ ）のつるには（ ）はならぬ | 記号 | （ ） | （ ） |
| 五 | 旅は道づれ（ ）は情け | 記号 | （ ） | （ ） |
| ア | まかぬ（ ）は生えぬ | | | |
| イ | 立つ（ ）あとをにごさず | | | |
| ウ | （ ）をみたら泥棒（どろぼう）と思え | | | |
| エ | （ ）多くして船山にのぼる | | | |
| オ | とび（とんび）が（ ）をうむ | | | |

しろくまテスト 第四回 解答・解説編

1 体の一部をあらわす漢字を一字入れて慣用句を完成しなさい。

- 一 目から（鼻）にぬける。
- 二 口に蜜（みつ）あり、（腹）に剣あり。
- 三 真綿（まわた）で（首）をしめる。
- 四 （耳）をそろえてお金をはらう。
- 五 勉強がよくできることを（鼻）にかけてじまんする。

「口に蜜あり、腹に剣あり」は聞いたことがなかったかもね。 「腹をさぐる」「腹のうちはわからない」、というように、「心の中」の意味を「腹」は示すときがありますよね。

2 体の一部をあらわす漢字一字を入れ、その意味を選びなさい。

- 一 （鼻）を折る 記号 （ウ）
- 二 （腰）を入れる記号 （エ）
- 三 （手）に乗る 記号 （カ）
- 四 （口）を割る 記号 （ア）
- 五 （肝）をつぶす記号 （イ）
- 六 （耳）を貸す 記号 （オ）

入試でじっさいに出た問題だけど、②の「腰を入れる」は、しろくまは、ちょっとどうかな、と思っています。もはん解答は「腰」だけど、「ことわざ大辞典」には出ていない表現… 「身を入れる」のほうがよいかなくなって気がしています。「本腰を入れる」はよいのだけれどね。

「腰をすえる」は「落ち着いて物事にとりくむ」になって、こちらの同義（同じ意味）に「腰を入れる」が書いてあるので、ちょっと「エ」の「本気になってことにあたること」の答えではないような気がしています。

3 漢数字を答え、意味をえらびなさい。ただし、あてはまる意味がない場合はXをつけなさい。

- 一 石の上にも (三) 年 記号 (エ)
- 二 一寸の虫にも (五) 分の魂 (たましい) 記号 (ク)
- 三 岡目 (ハ) 目 ※「傍目 (おかめ)」の場合もあり 記号 (ウ)
- 四 (ニ) 足のわらじをはく 記号 (キ)
- 五 (三) つ子の魂百まで 記号 (オ)
- 六 十日の菊 (きく)、(六) 日のあやめ 記号 (カ)

ことわざや慣用語では、「漢数字」がよく出てきます。

「早起きは三文の得」というのを知っていますよね。あれってもともとは「早起きは三文の得にしかならない、だから早起きしてもしかたがないよ」って意味だったの知っていましたか？「三文」って、二束三文という表現があるように「めっちゃ安い、ねうちがない」という意味に使われる慣用語表現なので、この「ことわざ」は、もともとは早起きをおすすめするものではなかったのです。使っているうちに「誤用」が「正しく」なってしまった例です。

「九分九厘まちがないっ」という表現聞いたことないですか？ ほとんどまちがないっという意味ですが… でも、変ですよ。九分九厘って、9・9%です…

90・1%はまちがいっ！ ほとんどまちがいやんけっ！ て、ツッコミ入れてしまいです。これは、省略 (しょうりやく) した表現なんです。ほんとうは「九割九分九厘まちがないっ！」って言うていたのですが、言いにくいから (舌かみそう) 最初の「九割」を省いてしまった表現なんですよ。

「十日の菊、六日のあやめ」。これはわかりますか？ これもちょっと省略があります。

「九月十日の菊、五月六日のあやめ」という意味です。

さてさて、みなさんは、五節句いえますか？

三月三日は「上巳 (じょうし)」、五月五日は「端午 (たんご)」、七月七日は「七夕 (しちせき)」、九月九日は「重陽 (ちゅうよう)」、そして「一月一日」と思ったらまちがい「一月七日」が「人日」で、五節句です。これらをおぼえてみませんか？ ちょっとおとなな表現でしょ？ 三月三日は桃の節句、五月五日は子どもの日、とか、ちょっと幼稚 (ようち) な表現からは卒業してみましょう

端午の節句の花は「あやめ」、九月九日は「菊の節句」ともいいます。菊は十日じゃおそい、あやめは六日じゃおそいって、なるわけです。

4 一〜五、ア〜オに適切な語句を入れ、一〜五の反対の意味のものをア〜オから選びなさい。

- | | | | |
|---|-------------------|----|-----|
| 一 | あとは（野）となれ（山）となれ | 記号 | （イ） |
| 二 | 三人よれば（文殊）の知恵 | 記号 | （エ） |
| 三 | （果報）は寝てまで | 記号 | （ア） |
| 四 | （うり）のつるには（なす）はならぬ | 記号 | （オ） |
| 五 | 旅は道づれ（世）は情け | 記号 | （ウ） |

まちがいがしやすい慣用表現ってありますよね。

「流れに棹（さお）さす」って言うと、きっと「さす」という表現のイメージから、「流れを止める」って意味だっと思ってている人、大人にもけっこういます。川をくだる船に、さおをさしているわけですから、「さらに勢いをつける」って意味なんです。

「三人よれば文殊の知恵」ってよくいいます。「文殊」は「もんじゅ」って読みますが、これは知恵の仏さま、「文殊菩薩（もんじゅぼさつ）」のことをさしています。

神さまや仏さまも、慣用表現にはよく出てきます。

東京の博物館で奈良の興福寺の「阿修羅（あしゅら）像」が展示されました。あしゅらさんは、戦って戦って、最後に仏さまにすぐわれて仏道にめざめる、という神さまです。戦う相手は正義の神さま、帝釈天（たいしゃくてん）。「阿修羅のように」とか「修羅場」とか、ちよっと戦いのイメージがつよいたとえに使われる表現ですが…

切り出した石など、大きく重たいものを運ぶ、木のソリのことを「修羅（しゅら）」というのを知っていますか？

なんで修羅って名前を使うのかな？ と思っていたら、むかしの人ってすごいですよね。神話をもとにした言葉遊びだったんです。

修羅は帝釈を動かす… 悪が正義を動かす… 悪いことをする人が出るとそれを解決しようとして正義の人が必ず動く、悪いことがおこっても心配いらぬよ、という今では使われない慣用表現が昔はありました。

帝釈と大きい石、大石（たいしゃく）をひっかけた言葉の遊び。修羅は大石を動かす、というわけで、大きな石を動かす道具を修羅って名づけたんですって。（ではまたね）